令和元年度　大田区立雪谷小学校　自己評価　報告書

令和2年3月9日

○　本校の概要

児童数725人。学級数通常級22クラス、特別支援級4クラス。校内研究は国語科で行い、研究テーマは「共に学び合う児童の育成」である。児童の思考力・表現力・判断力の向上を目指し、児童が主体的に学ぶ問題解決型の授業を行っている。年3回の読書週間の設置、保護者や地域の方（トムテの会）の通年の読み聞かせ、PTAによる図書室の整備等を行い、読書活動の充実にも力を入れている。また、読書学習司書を活用した、調べ学習の授業支援や調べ学習室の整備等を継続して行っていく。また、夏季休業日・冬季休業日には、学校支援地域本部を中心とし、学校と連携を図った体験的な活動「わくわくスクール」を積極的に展開している。若手教員や経験の浅い教員の比率が高いので、校内研究や授業観察、OJTを通して指導力の向上に努めている。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	コメント
プラン１　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 区独自の漢字検定、作文指導、読書司書との連携を通して、コミュミケーションの基となる国語力を高め、「伝え合う力」を育成する。	4：「進んで自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりできる。」と答えた児童が80%以上 3：「進んで自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりできる。」と答えた児童が70%以上 2：「進んで自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりできる。」と答えた児童が60%以上 1：「進んで自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりできる。」と答えた児童が60%未満	2	・外国語ではALTと連携した授業に取り組んでいる。校内で伝達研修を実施したので、次年度の教科化にむけて準備していきたい。 ・おおたものづくりに向けて、図工科を中心に、計画的に学習を進めている。 ・日々の授業ではICT機器を活用した授業実践を重ねている。 ・学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、デジタル教材の活用をさらに充実させ、分かりやすい授業作りに努める。 ・人権週間や人権集会を通して、人権教育の実践している。今後、資料等をより効果的に活用していきたい。 ・一校一の取組の「長縄」など、運動朝会を計画的に実践してきている。 ・区独自の漢字検定では、受験した級に合格できるよう、夏休みや日々の課題とし、指導を重ねている。 ・読書学習司書とも連携し、学習単元に必要な書籍などを準備したり、地域の図書館との連携を充実させたりしている	・意見を伝える時に、「分かりやすく伝える」ことが重要であるが、どのように伝えれば伝わるのか、先生が例示するなどの工夫が高学年の指導などでは、必要になってくると思う。 ・二分の一成人式を見たかぎり、自分の意見を伝えたり、聞いたりできていると思う。 ・外国語の授業について、ALT不在時に担任の先生が中心となり、外国生活の経験のある保護者と協力していく仕組みがうまくできれば、英語授業としてもいいのではないかと思いました。 ・日々の授業におけるリフレクションにおいて、ペアやグループなどを組み合わせると共に、児童個々のリフレクション（自己対話）と併せるなどしてみてはどうか。自分の中での振り返りができないと、人の意見を聞くこともできないかと思います。（Think-Pair-Share）
プラン２　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 算数において、習熟度別・課題別の学習を取り入れ、個に応じた指導の充実を図る。	4：「学校での勉強がよく分かる」と答えた児童が90%以上 3：学校での勉強がよく分かる」と答えた児童が80%以上 2：学校での勉強がよく分かる」と答えた児童が70%以上 1：学校での勉強がよく分かる」と答えた児童が70%未満	4	・今年度も4年生以上の学年で、大田区の学習効果測定結果をもとに「学習カルテ」を作成し、苦手な単元を克服できるような学習計画を立てるなどして、学習の基礎・基本の定着に取り組んできた。 ・習熟に差の見られる算数については、補習学習や東京ベーシックドリル等を活用して、個に応じた習熟度別学習を行ってきた。 ・今後は、新学習指導要領の趣旨も踏まえ、様々な教科で分かりやすい授業づくりを充実させる。	・習熟度別授業を行うなど、効果を上げていると思う。 ・児童全員が学校の勉強をよく分かるまでお願いします。 ・若手が中心の教員団にあって、指導レベル向上に向けた取り組みなど、今後も積極的に推進していってください。
プラン３　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 「元気の良い挨拶ができる子」の育成のために、月に一回のあいさつ運動を全学年で行う。	4：「自分には良いところがある」と答えた児童が80%以上 3：「自分には良いところがある」と答えた児童が70%以上 2：「自分には良いところがある」と答えた児童が60%以上 1：「自分には良いところがある」と答えた児童が60%未満	2	・年に2回（6月・11月）のふれあい月間で、4～6年生はアンケートを行ってきた。また、1～3年生は「あなたのきもちをおしえて」という形式のアンケートで児童の気持ちを把握してきた。結果をもとに聞き取りや面談を行い、児童に寄り添った共感的理解や、ストレス症状についての原因究明と解決を図ってきた。今後も継続していく。 ・自己肯定感については、生活指導部で「良いところ見つけ」を全校で実施したり、日常的に互いの良さを認め合う場を設定したりしてきた。 ・道徳授業は、全学年、全単分の場面絵などの整備を行ったことで、さらに実践しやすくなり、充実した授業展開が図られた。 ・挨拶については課題が残っているので、次年度、改善していく。	・自治会で挨拶について話し、みんなで挨拶ができるようにしたいと思います。 ・自信や共感力など、おおむね問題ないと考える。 ・児童はもう少し、自信をもって学校生活を送ってもらいたいです。自分では短所と思っていても、他人には長所と思われるかもしれません。3の評価でもよいと思う。 ・旧来のトップ型リーダーシップではなく、近年言われている一人一人が出来ることを行い、集団としての目標共有、達成に全員で取り組むリーダーシップの考え方を浸透させていく事により、自己肯定感は向上していくと思う。
プラン４　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 休み時間には、教師も共に遊ぶ「とも遊び」の推進を図る。	4：「進んで運動している」と回答した児童が90%以上 3：「進んで運動している」と回答した児童が80%以上 2：「進んで運動している」と回答した児童が70%以上 1：「進んで運動している」と回答した児童が70%未満	2	・全校朝会や始業式などの校長講話で朝ごはんの大切さを話したり、学級でも、声掛けを行ったりしている。 ・小学生駅伝大会の練習を充実させたり、マット運動、体力テストなど教員の指導研修を実施したりした。運動委員会が休み時間に「ドロケイ」や「ドッジボール」などの遊びについて企画・実行をし、他学年との運動を奨励した。 ・運動朝会では、長縄や持久走などを実施し、運動習慣の定着に努めた。 ・体育・健康教育授業地区公開講座を実施した。学校・家庭・地域が一体となった体育・健康教育を推進した。運動会の練習を公開したことで、運動会を迎えるまでの過程や指導の積み重ねを参観した多くの保護者と共有できた。 ・体育の授業で体を動かすことの良さ、楽しさを感じさせると共に外遊びを今後も奨励していく。	・体育に積極的に取り組む児童が比較的に多いと思う。 ・児童はもっと積極的に運動（遊び）をしましょう。 ・運動会や駅伝大会などの成果を見るかぎり、評価が低すぎると思います。アンケートをとる時期にもよるかと思います。
プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 昨年度までの研究を基盤に授業実践を通した研究の推進を図る。	4：「授業は子どもにとって分かりやすい」と回答した保護者が、90%以上。 3：「授業は子どもにとって分かりやすい」と回答した保護者が、80%以上。 2：「授業は子どもにとって分かりやすい」と回答した保護者が、70%以上。 1：「授業は子どもにとって分かりやすい」と回答した保護者が、70%未満。	4	・校内研究やOJTを通して、若手教員を育てるとともに、今後も「分かる授業」を目指して教員個々が研鑽を積んでいく。 ・サポートルームの教員との連携を図りながら、特別支援も充実させているので、今後も継続していく。 ・校内研究では、「読む力を身に付け、思考力や想像力を養う児童の育成」をテーマに、説明的な文章における指導の工夫について、研究を積み重ねてきた。学年の実態に応じて、系統的な指導を実施できるように、次年度以降、改善していく。	・若い教員が多いので、教員間の学び合いの場を積極的に設けるなど、育成に力を入れてほしい。 ・親から見て、子供の受けている授業が分かりやすいと、多数が感じているので、続けて研修を積んでください。 ・引き続き、宜しくお願いします。
プラン６　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 地域・PTA・おやじの会などが主催する行事に参加し、地域や保護者との連携を深める。	4：「学校は地域の力を教育活動に生かしている」と回答した保護者が90%以上。 3：「学校は地域の力を教育活動に生かしている」と回答した保護者が80%以上。 2：「学校は地域の力を教育活動に生かしている」と回答した保護者が70%以上。 1：「学校は地域の力を教育活動に生かしている」と回答した保護者が70%未満。	4	・HPを日々更新し、最新の情報を発信するよう努めたが、今後さらなる改善が必要である。 ・地域人材の活用として、夏・冬のわくわくスクールがたいへん充実している。また、おやじの会主催の「雪小に泊まろう」などのイベントにも児童は楽しんで参加していた。 ・学校支援地域本部（「スクールサポート雪小」）のコーディネート力も高いので、今後も地域との連携を強化し、心も体も健やかな児童を育てていく。	・教員の負担を減らすため、また地域の人を児童の触れ合いの場を作るため、授業において、地域サポートを取り入れてもよいと思う。 ・学校をサポートするグループの協力、ありがとうございます。 ・ワクワクスクール、おやじの会、野球、サッカーなどのクラブ活動など、様々な取り組み成果がみられると思います。今後は、合唱、合奏、アートなど芸術分野での地域との連絡ができていくと更に素晴らしいと思います。
学校独自	学校図書館の整備や司書教諭の配置などの充実に取り組み、読書活動の向上を図ります。	子どもにとって魅力的な学校図書館となるように整備を行い、授業時間や休み時間の活用をはかる。		3	・週に1回、図書の時間を確保するよう努力したが、学年があがると、週一の図書が難しくなってくるので、休み時間等で	・図書室が整備され、読書意欲が高まっていると思う。 ・春夏冬休みに本を借りて、読むようにしましょう。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。　　保護者アンケート：回答者309名　・児童アンケート：5・6年、211名

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。